

令和7年度地区懇談会（鷺別地区） 議事録（概要）

令和7年10月28日（火）18:00～19:30

鷺別コミュニティセンター 出席者22名

5. 地区連合町内会が市と意見交換したい事項についての懇談：

（1）鷺別コミュニティセンターホール音響設備等について

概要説明：鷺別地区連合町内会

- ・ ホールの音響設備でハウリングを起こしたり音量が一定に保てない事が度々起こったりする。市民演芸などの音楽関係ではせつかくの設備利用ができず、また、音響担当者が居ないためトラブルに対応できないので、市民会館同様の対応を希望する。

回答：市民生活部

- ・ マイク使用時にノイズや音声の途切れが発生していることを市として確認しており、ワイヤレスマイクの更新を進めていて、遅くとも年度内には新しいものに交換する予定である。
- ・ ワイヤレスマイクと有線マイクの違いや対応については、業者等に確認した上で検討していく方針である。
- ・ 市民会館のように音響専門の担当者を配置することは、新たな人員確保が必要となり、現時点では難しいと考えている。
- ・ これまでは市職員や委託事業者等が操作説明や音量調整を行っていたが、今後は利用者自身が調整できるよう、操作方法を記載した説明書を設置して対応していく予定である。

5. 地区連合町内会が市と意見交換したい事項についての懇談：

（2）鷺別コミュニティセンターホール空調設備について

概要説明：鷺別地区連合町内会

- ・ 鷺別コミュニティセンター2階ホールを夏季期間に利用するときは室蘭側のカーテン利用や窓を開放し、ロビーの小窓を開けて風のとおりを利用して涼んでいるが、猛暑や多人数の時などでは効果が無い。熱中症対策としても冷房設備の早急な設置を希望する。

回答：市民生活部

- ・ 鷺別コミュニティセンター2階ホールへの冷房設備設置については、猛暑などを踏まえ必要性を認識している。
- ・ ただし、ホールが約430㎡と大きく、効率的に冷やすには大掛かりな工事が必要になると考えている。
- ・ 市には小中学校など他の公共施設も多く、すべてに一度に冷房設備を設置することは

財源上難しいため、施設ごとの優先度と財源を踏まえて検討していく。

- ・ 冷房設備の必要性は理解しており、設置の可能性について今後も検討を進めていく。

6. 市からの情報提供事項

(資料4) 新しい市役所本庁舎の整備について

説明：総務部

- ・ 資料に基づき説明を行う。
- ・ 質疑なし

6. 市からの情報提供事項

(資料8) 鷺別保育所の運営を民間に委託します

説明：保健福祉部

- ・ 資料に基づき説明を行う。
- ・ 質疑なし

6. 市からの情報提供事項

(資料1) 津波発生時の対応について

説明：総務部

- ・ 資料に基づき説明を行う。

質問：鷺別地区連合町内会

- ・ 防災無線は聞こえづらく内容が分かりにくいとの声があるので、他のメディアによる周知方法の検討はできないか。
- ・ NHKの警報時にテレビが自動起動して情報が流れる仕組みの「ラジオ版」のような機器を導入してはどうか。また、その機器を全市民に配布するのは難しいと思うが、希望者に有料で配布する形なら現実的ではないか。

回答：総務部

- ・ 防災行政無線が聞き取りづらいという指摘は以前からあり、市もその課題を認識している。
- ・ 警報発令時に自動的に電源が入り、内容を放送する「ラジオ型受信機」の仕組みが実在することを市も把握しており、調査を進めている。
- ・ この仕組みの導入には、市側システムの整備など初期投資が必要であり、受信ラジオ本体も1万円前後の費用がかかる見込みである。
- ・ 今後、12月から地域住民と情報交換しながら、市からも情報提供を行い、導入の是非や具体的な在り方を共に検討していく方針である。

意見：鷺別4丁目町内会

- ・ 津波時の実際の避難では、高齢者を含む多くの住民が徒歩で自動車学校付近まで約30分かけて避難し、大変な負担となった。
- ・ 避難場所によって「水がもらえる所」と「何もない所」の差が大きく、自動車学校では水もトイレも確保されず、高齢者が約2時間半炎天下で我慢して立っている状況だった。
- ・ 高齢者の中には坂を上り切れず途中までしか避難できない人もおり、そうした人への配慮や支援が十分でなかった。
- ・ 今後は避難場所ごとの支援格差が生じないように、行政が連絡・調整を徹底し、どの避難場所でも必要な物資や環境が確保される体制づくりを求める。

回答：総務部

- ・ 各地区からも「高台避難場所に備蓄品がなく困った」という声が寄せられている。
- ・ 市はこれまで住民に対し、水や最低限の食料などの非常持ち出し品を持って避難するよう周知してきたが、今回の避難で十分徹底されていないことを実感した。
- ・ 外出中などで持ち出し品を持っていない人もいるため、全ての高台に水や携帯トイレ、防寒・日よけ・雨よけになる物資を置けないか検証を始めており、他自治体の事例も参考にしている。
- ・ 12月の場で、こうした検証状況や今後の対応方針について、住民に説明できるよう準備を進めている。

意見：鷺別2丁目町内会

- ・ 昨年、市長から町内会ごとの避難先と想定人数を整理する提案があり、2丁目などは真宗寺への避難を徹底してきたが、実際の避難後の人数把握や情報のフィードバックが遅く、十分な意見交換ができていないと感じている。
- ・ 鷺別地域は高齢者が多く、遠方や急な高台まで歩いて避難するのは負担が大きいため、津波の高さなど状況に応じて、イオンや小学校の上など、近くの建物を一時避難先とする方が現実的ではないか。
- ・ 避難先としては「何メートルの津波まで」「何人収容でき、水・トイレ・食事などが確保できるか」といった条件を整理し、避難ビルのような施設の活用も含めて、地区ごとでなく鷺別全体として計画すべきと考えている。
- ・ 10年ごとに防災グッズを配るだけでなく、鷺別地域の防災組織が中心となり、ソフト面の連携強化や計画づくりを行政と継続的に議論しながら進めてほしい。

回答：総務部

- ・ 津波避難は地域住民自身で行わざるを得ないため、そのためのルールやマニュアルは、市が一方向的に作るのではなく、地域の実情や「どこへ・どう逃げたいか」といった住民の意見を聞きながら共同で作成していく方針である。
- ・ これまで意見交換が不足していたとの指摘を受け、市は今後1年間をめどに、担当職

員が地域をこまめに回って要望や課題を聞き取り、避難マニュアルづくりを進めていく考えである。

- ・ 避難先の備蓄品などに関する要望も継続的に受け付け、全て叶える約束はできないが、避難や避難生活に支障が出るような不足については、住民の声を踏まえてできる限り対応していく。

意見：鷺別3丁目町内会

- ・ 高齢者や、全然歩けない人など、避難できない人がたくさんいるので、津波避難ビルではなく、津波避難タワーが近くにあれば助かる人がいると思うので検討してほしい。

回答：総務部

- ・ 歩行に支障がある方がいることは色々なところで聞いている。
- ・ 先に鉄南地区で作成していた個別避難計画について、今年度改めて防災担当が説明に回った経緯があるので、個別避難計画の件については今後調査に協力いただきたい考えである。
- ・ 津波避難タワーについては道東が先進地になるため、視察を行い、情報共有を行いながら今後話し合いをさせていただきたい。

回答：市長

- ・ 障がいがある方のことについては、町内会と障団連との間に市が入り情報共有できるようにしたいので時間をいただければと思う。

意見：鷺別3丁目町内会

- ・ 津波避難時、自動車学校の高台まで登れない高齢者もおり、避難後に落ち着いたら自動車学校の建物内で休憩やトイレ利用ができるよう、市と自動車学校が提携してほしいという要望が以前から出されているが、まだ実現していない。
- ・ 高台周辺は個人住宅が多く、公的な避難施設がないため、水など最低限の物資を預けておける倉庫のような場所があれば助かる。
- ・ 鷺別コミュニティセンター第1会議室の黒板が老朽化しており、掲示物が貼れず利用に支障が出ているため、マグネットで掲示できるホワイトボードへの更新を希望する。

回答：市長

- ・ 黒板が壁付けのままの交換が難しい場合には、代わりに移動式のホワイトボードを設置する案もあり、予算の範囲で早期に実現したい。
- ・ ただし、タペストリーや大きな掲示物など用途に合うサイズ・仕様を検討する必要があるため、導入前に利用者から意見を聞き、どのようなホワイトボードが適切か協議して決めたい。
- ・ 高台にある家庭が避難者を受け入れる「支え合い」の仕組みは10年前からモデルケー

スがあり、市としてもう一度整理し、12月までにたたき台を作成した上で、翌年3月まで住民と意見交換を行い、4月以降は訓練を通じて具体的なルールづくりを進めていく。

回答：総務部

- ・ 室蘭総合自動車学校とは、敷地やコースを津波時の避難場所として使用する協定を既に締結している。
- ・ 今回の避難時には、多くの避難者が当初屋外にいたが、自動車学校側の判断で建物内に受け入れられ、水の提供も行われた。
- ・ 避難後、市は自動車学校を訪問してお礼を伝えるとともに、今後の対応について協議し、開校時間帯など人がいる場合には同様の対応を続ける意向が示された。
- ・ こうした自動車学校の取り組みを参考にしながら、他の高台避難場所とも連携内容を整理し、同様の体制づくりを進めていきたいと考えている。

質問：はまわし町内会

- ・ 7月30日の避難を通じて、多くの課題が明らかになり、これがもし冬期であればさらに深刻な事態になっていたのではないかと強い不安が住民の間に生じている。
- ・ 富浜町内会では高台避難が指定されている場所があるが、最後に急な坂道を登る必要があり、冬場に雪や凍結がある状況では、徒歩避難者が転倒・骨折・頭部打撲などの危険にさらされると懸念している。
- ・ 鷲別神社や自動車学校への避難についても同様に、冬期には坂道の凍結により徒歩・車いずれも上がれなくなるリスクが高いと考えられている。
- ・ ロードヒーティングは費用面から難しいと思われる一方、現在設置されている砂袋は数が圧倒的に不足しており、冬期の避難安全対策として砂袋の量や配置などを含めた具体的な改善策が必要だと問題提起している。

回答：総務部

- ・ 夏場だけでなく冬期の津波避難では、雪や凍結による坂道での転倒・事故など、別の重大な危険が生じることを市も認識している。
- ・ 津波の想定高さに応じて、必ずしも最も高い高台まで行かずに済む近隣施設も避難先候補とするなど、状況別の避難先を整理していく考えである。
- ・ 坂道の滑りやすい箇所など具体的な危険箇所や「ここをこう改善してほしい」といった住民の要望を聞き取りながら、冬期を含めた安全な避難ルート・方法の検討を進めていく方針である。

その他

意見：鷲別地区連合町内会

- ・ クリーン作戦で集めたごみは「燃えるごみ」と「燃えないごみ」に分別しているが、

鷲別地区では燃えないごみ収集日が前週に当たるため、回収まで約1か月放置される状況が生じている。

- ・ この運用は働き方改革の影響と推測されるものの、年2回の実施に限られるため、少なくともクリーン作戦当日に回収してもらえよう、収集日の見直し・改善を求める。

回答：市民生活部

- ・ クリーン作戦のごみ回収は、以前は「燃えないごみのみ当日回収」「燃えるごみは通常収集日に各ステーションへ排出」という方式で実施していた。
- ・ しかし、ここ10年ほどで当日の回収量が約4割程度にまで減少し、従来どおりの体制では効率面で無駄が出ていることが課題となっていた。
- ・ 加えて、収集業者側の人手不足やゴールデンウィーク・祝日の休業要望など、働き方改革への対応もあり、今年からクリーン作戦当日の収集を取りやめる運用に変更した。
- ・ 燃えないごみが長期間置かれる問題への対応として、自転車・タイヤ等の大型ごみは環境対策担当へ連絡すれば、当日ではないができるだけ早期に市が回収するほか、クリーン作戦の日程を固定せず「燃えないごみ収集日の直前の日曜日」に各町内会が設定する、といった運用改善案も今後の解決策として提案する。